

室蘭市医師会

市民健康教室

講演会①



A検査の相談を。採血1本で可能です。

前立腺がん。高齢化で患者数が増えているが、診断法も進歩している。前立腺から分泌されるPSA(前立腺特異抗原)が、4・0を超えると、がんの可能性は10〜20%ある。症状が無くても、がんが見つけられる。ぜひ、かかりつけ医にPSA検査の相談を。採血1本で可能です。



「50歳を過ぎたらPSA検査を」「前立腺がんのロボット手術は室蘭でも可能になった」と話す前鼻主任医長

く、15分程度で終わる。前立腺がんの治療は、手術、放射線、薬物(内

50すぎたら必ず検査

製鉄記念室蘭病院泌尿器科・前鼻健志主任医長

前立腺がん

分泌)を経過観察の四つ。骨シンチグラフィ、コンピュータ断層撮影装置

(CT)、MRIで臓器リンパ節、骨への転移があるか無いかを調べ、がんのステージを判断する。転移しておらず、がんが前立腺内にとどまる時は手術か放射線で根治治療を進めるが、それぞれ長所と短所がある。私は短所の面もきちんと説明し、家族会議で決めてもらうスタンス。

手術を選んだ方。昨年6月の段階で「ロボット手術をしたい」と希望されたら、札幌の病院を紹介した。しかし、現在は状況が変わった。製鉄記念室蘭病院でもロボットを導入したため。

ロボット手術、今は標準治療の一つだ。前立腺全摘の開腹手術は、道内どこでもできるが、ロボット手術は札幌、旭川、函館、帯広、釧路、岩見沢だけ。今は室蘭でも提供できる。

開腹手術では下腹部を13センチほど切るが、ロボット手術は大きくて1・5センチ、ほとんどは8センチほどで済む。痛みも少なく、患者さんも翌日から歩ける。出血量も少ない。こうしたことから入院期間も短く済む。

前立腺を取る欠点として、排尿に関係する筋肉や周りの勃起神経が傷つき、尿漏れや勃起しない悩みが術後ある。しかし、ロボットのきめ細かい操作で、尿道と膀胱をつなぎ合わせる時も、確実に細かく進められるので、術後の尿漏れも少なく、患者さんによっては勃起も期待できる。ロボット手術は、利点だけでなく欠点も改善できる。

放射線治療も有効だが、副作用がある。直腸が傷ついて下痢、血便をすることもある。これは、直腸が近いからだ。(正常組織への照射線量を抑えつつ、腫瘍部分に放射線を集中的に照射する)強度変調放射線治療(IMRT)は、西胆振は日鋼記念病院で行っている。製鉄記念室蘭病院でもIMRTに近い治療が提供できている。

前立腺がんの治療は、私と患者さんだけで決めるわけではない。ご家族をはじめ、薬剤師、化学療法・病棟・外来の各看護師、栄養師、ソーシャルワーカーなど、みんなで考える。

前立腺がんは早期に発見できれば治る。50歳をすぎたらPSA検査を受けて。採血を1本で済むし、早期で見つけられる。製鉄記念室蘭病院は、前立腺がんについて、保険適応となるすべての治療が提供できる胆振唯一の病院。不安があれば、いつでもご相談を。

◇ 室蘭市医師会(野尻秀一会長)などが主催した「市民健康教室」が3月、室蘭市東町の室蘭・登別保健センターで開かれた。「男性のがん、女性のがん」をテーマに、市内の医師2人が、「前立腺がん」や「乳がん」の検診から診断、最新の治療法などについて解説した。概要を2回に分けて紹介する。(松岡秀宜)